

第23号



川島支部だより

《大好き! あったか~い町 かわしま》

令和4年 3月 9日
 発行
 筑西市社会福祉協議会
 支部長 萩野谷 勝
 【事務局】 小林355 TEL22-5191
 編集
 川島支部 広報調査部会
 部会長 片岡 一雄

ごあいさつ 【 筑西市社会福祉協議会川島支部長 萩野谷 勝 】



日頃より、支部活動にご理解ご協力をいただき心より感謝申し上げます。
 新型コロナウイルス感染症は、世界規模で社会全体を暗い影で覆っています。このコロナ禍において、人との触れ合いや交流が制限され、また緊急事態宣言等により、多くの事業が中止をよぎなくされた一年でした。
 ワクチン接種により、少し明るい方向に向かって行くと思われませんが、まだまだ通常の生活に戻るまでには時間がかかると思います。
 早く今まで通りの生活ができ、多くの事業が行えますように、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

広報調査部会

『広報調査部会 活動報告につきまして』

広報調査部会長 片岡 一雄

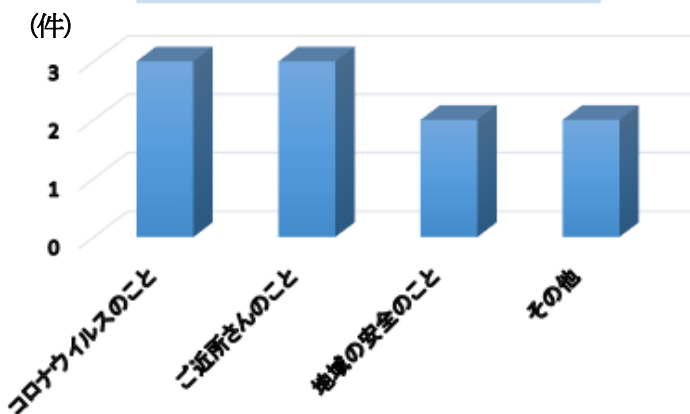
今年度も新型コロナウイルスの流行により、普段の生活の見通しが立たない状況が続き、社協川島支部においても多くの行事が中止となりました。このような中ですが本年度の広報調査部会では、普段身近な生活で感じている困りごとについて取り上げ情報交換のきっかけになればとの思いから、広報調査部会委員の中で身近な困りごとに関するアンケートを実施しました。

その結果から、身近な困りごとでは新型コロナウイルス関連や、ご近所さんに関連する困りごとが多く挙げられました。特に新型コロナウイルス関連では、感染防止のための外出制限や恒例行事の中止の影響で知人や友人との交流が少なくなり寂しさを感じるとの声が多く集まりました。

また、ご近所さん関連の困りごととしては、ゴミの分別や捨てる時間などルールについての問題が多く挙げられ、ご近所さん間での環境を整えていくことの重要性を痛感させられました。

広報調査部会では、新型コロナウイルスの流行が収束し、地域での行事が再開となった際には、川島地区の皆様にも明るい話題をお伝えさせていただきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

お困りごと アンケート結果



『自治会連合会川島支部の活動につきまして』

筑西市自治会連合会川島支部自治委員会 会長 堀江 久男

川島地区の皆様には、川島支部自治委員会活動につきまして、ご理解、ご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

ここ2年間は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの経験した事のない社会状況となり、自治会をはじめ各種団体の活動が制約され、この地域に根付いてきた、大きな交流イベント「川島地区体育祭」「川島地区文化祭」「川島地区住民フェスティバル」や社会福祉活動など中止を強いられてきており、ご心配いただきましたことに、心から感謝いたします。早期にコロナ禍の生活が解消され、従来通りのイベント開催等が出来る事を切に望むものであります。

このような中でありますが、川島地区は新たな地域づくり、安心・安全な生活環境整備が着実に進んでいます。

まず、川島地区の有志「おかえりなさい 人面土器プロジェクト」が取り組んだ地域活性化事業です。川島駅前に「KAWASHIMA」のシンボルとして弥生時代の女方遺跡から出土した「女方人面土器」のレプリカ建立事業です。



(川島駅前：人面土器)



(川島駅前：人面土器)

次に、地域のインフラ整備です。記憶に新しい「平成27年9月関東・東北豪雨」ですが、川島地区も甚大な被害を受けました。速やかに治水対策事業が行われ、川島地区全域の堤防整備が完了し、治水対策が万全なものになりました。

また、長年の懸案である国道50号線の4車線化工事ですが、令和5年春頃完了予定とのこと、川島地域における、国道50号線の慢性的な交通渋滞解消が図られるものと期待しております。



(川島地区堤防)



(川島地区堤防)



(50号線4車線化工事)

最後に、川島地区の皆様がより良い日常生活を送れるよう、各種団体と連携を図るとともに、地域の課題解決に積極的に取り組んでまいりますので、ご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

寄稿

『防犯連絡協議会川島分会の活動につきまして』

防犯連絡協議会川島分会 分会長 池羽 芳夫

一日ごとに春の気配を感じる今日この頃、川島地区の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から防犯川島分会にはご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当分会では、令和2年度、青色パトロールカーでの川島地区・玉戸駅周辺の巡回パトロールを41回、二セ電話詐欺防止活動を地区内2回と筑西市1回、防犯巡回パトロールを2回、川島小朝のあいさつ運動への参加協力等街頭活動を実施しました。例年ですと、コロナ禍のため中止になった、小川・川島・女方の夏祭り、地区体育祭、歩く会、川島住民フェスティバルでの事故防止の協力や防犯啓もう活動、青少年育成講演会等への参加もしています。

防犯川島分会活動の最大の特徴は、二セ電話詐欺防止への取り組みです。5年前から年金支給日に3金融機関及びATMの窓口での詐欺防止啓もう活動を行っており、昨年からは4月と10月の年金支給日に実施しています。幸いにも二セ電話詐欺の被害が川島地区から無いことが、会員の励みと誇りになっています。



寄稿

『総合相談支援センター しらとり につきまして』

社会福祉法人 征筆会 総合相談支援センター しらとり

センター長 渡辺 美恵

令和2年6月、地域の方々が安心して生活できるよう、高齢・障害分野の相談機能が1か所に集まった「総合相談支援センターしらとり」が下館総合体育館の西側にオープンしました。ここには、下館北部・西部地区の高齢者の総合相談窓口である「地域包括支援センターしらとり」、ケアマネジャーが常駐し介護認定を受けた方のケアプラン作成を行う「しらとり指定居宅介護支援事業所」、障害を持った児童・成人の相談対応を行う

「相談支援事業所しらとり」が集まり、様々な相談内容に対し資格をもった専門家が知識を活かして対応しています。『近所のおばあさんがこのところ元気がないようで・・・』『介護認定ってどうやって受けたらいいの?』『障害サービスってどんな人が受けられるの?』等、ちょっとした疑問などにも各スタッフが丁寧に対応いたします。お電話での相談、来訪での相談どちらもご対応いたしますので、何か困ったことがありましたらお気軽にご相談ください。



お問い合わせ先は



0296-45-6166



〒308-0067 筑西市上平塚743-5

寄稿

『病院づくりから地域医療づくりへ、 さらに地域(まち)づくりへ』

寄稿:茨城県西部メディカルセンター 病院長 梶井 英治
報告:社会福祉協議会川島支部 広報調査部会員 馬場 泰則

先般、自治会長 各位宛に茨城県西部メディカルセンター梶井英治病院長から表題の寄稿文が寄せられましたので、その一部を紹介させていただきます。

○病院づくり⇒地域医療再生計画の中で、筑西・桜川地域の公立病院集約化が図られ、筑西市に於いては茨城県西部メディカルセンターが開設され、現在4年目に入りました。病院づくりは現在も進行形です。今後も中核病院としての責務を果たせるよう成長して行きます。



○地域医療づくり⇒地域医療とは「住民の健康問題のみならず、生活の質にも注目しながら住民一人ひとりに寄り添い支援していく医療活動」です。地域には、病気を治す医療だけでなく病気の予防、継続的ケア、介護、看護、リハビリテーションといった支援、更には生活の向上、生き甲斐感の回復といった幅広い範囲をカバーできる医療体制が必要で、そこには住民皆様の協力と参加が不可欠です。地域医療づくりの基本は、住民、保健、医療、介護、福祉の連携、協力“わ”です。



○地域(まち)づくり⇒医療の基本は日常の暮らしと同様、人と人との関係性が重要となります。お互いの理解、お互いの助け合い、お互いの感謝が不可欠であり、地域が一丸となって地域の課題を解決し、暮らし良い地域を創っていく力(地域力)が育まれます。地域力は人と地域を元気にします。

茨城県西部メディカルセンターは地域住民の皆様のための病院です。住民の皆様、今後とも応援をよろしくお願いいたします。

